京アニ　あの時　何が

36人が亡くなった京都アニメーションの放火殺人事件から6カ月。過酷を極めた火災現場で何が生死を分けたのか。朝日新聞が入手した京都市消防局の活動記録や、救助に携わった市民や医師らへの取材から教訓を探った。▼1面参照

午前10時33分　最初の119番

「ドーンという爆発音がして煙が出ている」「けが人が大勢いる」

京都市消防局に119番通報が入ったのは午前10時33分。最初の出動指令が出るまでの2分間に22件の通報が寄せられた。京都市中心部の高所カメラの映像でも大量の黒煙が確認され、11隊が現場へ向かった。

「火事だ。やばい」

京都市伏見区の第1スタジオの西側で工事をしていた駐車場施工会社「SAT」（大阪）の大川武志さん（58）と、高橋龍児さん（39）は、同僚らと建物へ向かった。すすだらけの男性が、もくもくと黒煙をあげる建物3階の窓から脱出し、外壁にへばりつくようにして逃げていた。「足が半分かかるかどうか」（市消防局）の細い外壁の出っ張りだけが頼り。窓からは火の手も上がっていた。

大川さんらの作業用の3㍍の脚立では3階には届かない。思案していると、近くの住宅展示場の人たちが長いはしごを持ってきた。それでもまだ男性の足元には届かない。だが、大川さんは、建物の北西角に雨どいのようなものが上下に延びているのを見つけた。

「雨どいを使えば降りられる」。そう考え、男性を北西角に誘導した。高橋さんははしごの先端まで登り、男性に向かって叫んだ。

「足をつかんだるから、信じて降りてこい」

高橋さんは、はしごの方にぐんと伸ばしてきた男性の足を手のひらでつかみ、はしごまで誘導した。ペットボトルを渡し、「大丈夫か」と聞くと、男性は放心状態のまま、うなずいた。

「助けて！」。大川さんの同僚たちは、女性の叫び声がする建物1階へ走った。1階トイレ内に逃げ込んだ女性3人が外に出られないまま取り残されていた。出火から6分後、作業用のバールで窓の外側から格子を外し、その隙間から女性の体を折り曲げるようにして1人ずつ引っ張り出した。出火直後にトイレに逃げ込んでドアを閉めたことでトイレへの煙が遮断され、大川さんらの手助けもあって避難につながった。

「二次災害も怖かった。でも助けられる命がある以上は助けようと必死だった」。大川さんは、そう振り返る。事件後、作業車には上下に伸び縮みするはしご（スライダー）や救命に使えるロープなどを積むようにしているという。

午前10時40分　消防が到着

最初に京都市消防局の指揮隊が到着したのは出火から9分後の10時40分。現場から約100㍍南の路上で、京都府警の警察官が青葉真司容疑者（41）を取り押さえたのとほぼ同時刻だった。隊員らは、路上にいる負傷者たちの状況と、すべての窓から噴き出す黒煙や炎を見てまず増援を要請。続いて到着した隊が43分に、放水を始めた。

その5分後には、自力で避難した負傷者からの聞き取りで「建物内には約70人がいた」と把握。大勢の人が建物内に取り残されている可能性があった。炎と煙に包まれた状態で、空気ボンベを背負って隊員らが建物1階に入り、取り残された人の救助を始めたのは55分。1人を発見したがすでに息を引き取っていた。

続いて2階、3階、塔屋へと進んだ。猛烈な熱さから、屋内で活動できるのは10分間が限度。市内全域から出動した隊員約400人の多くが、交代で救出活動にあたった。1階で2人、2階で11人を発見したがいずれも全員亡くなっていた。救助隊が、3階と塔屋の階段がある塔屋側から開けられ、火から3時間半後1時45分。その階段では30人の遺体が見つかっていた。

午前10時　トリ

「こっちにいます」。近隣せられた負傷者とに、現場に隊は建物から を捜した。タジオの周辺して避難した ら120㍍つかった人 防局員は「 から遠くに げたのだろう

午前10時 負傷者の手当 を決めるトリ た。まずは、 をしている 断。その後、 等症は黄、 をつけている 発生から約 終えた。午 に黄の6人、 わせた男女

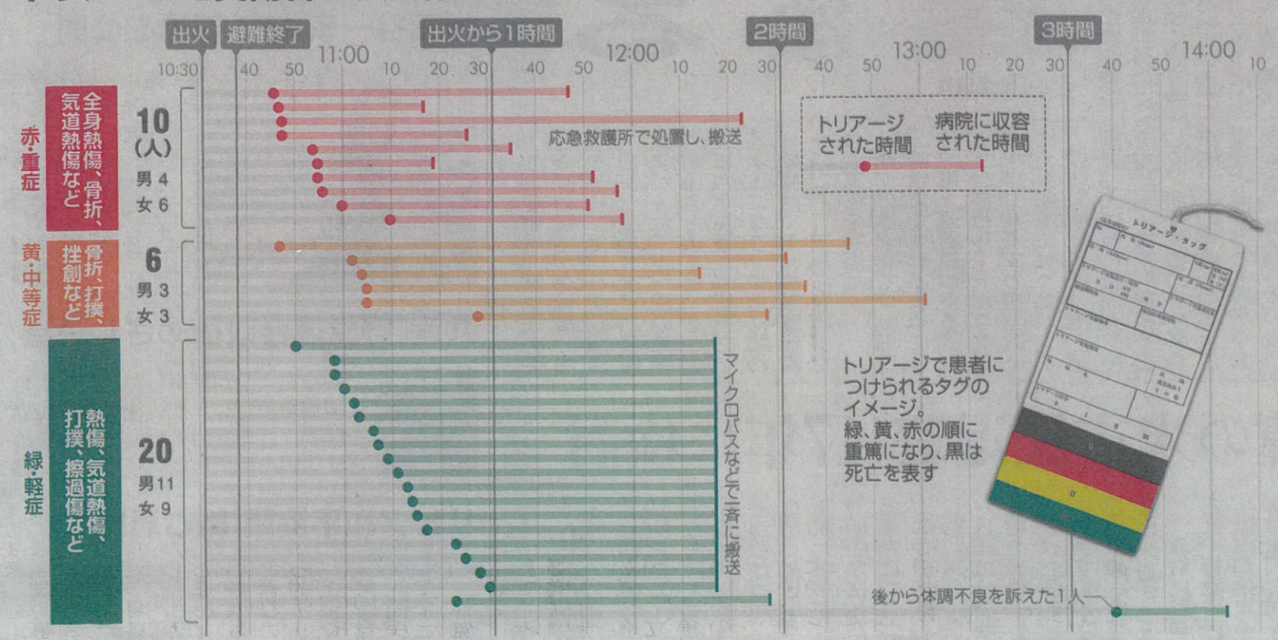
届かぬはしご「信じて降りてこい」

噴き出す黒煙・炎　活動10分が限度

放心のテント「見たことない光景」

シミュレーション・避難器具…教訓は

京アニ放火事件の主な消火・救急活動（2019年7月18日）

京都市消防局の資料から

トリアージと負傷者36人の搬送状況